

水環境総合指標研究補助事業の開催報告

大分工業高等専門学校 古川隼士，高見徹

「水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）」は、子ども達や住民が楽しみながら身近な水環境を調査・学習し、積極的な水環境改善活動を推進していくなどのために、環境省によって設定された指標です（1） 環境省：水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）～水環境健全性指標（2009年版）～活用ガイドライン）。大分工業高等専門学校では、大分高専環境科学センターと科学部部員の協力のもと、日本水環境学会九州沖縄支部からの研究補助事業を頂き、大分市内を流下する大分川本川の派川である裏川において、「みずしるべ」の調査を実施しました。

実施日は、2016年1月31日（日）であり、はじめに「みずしるべ」の実施の目的・概要および実施方法を把握するために、本校において1時間程度説明した後、裏川の調査現場へ向かいました。今回の調査の主な目的は、来年度以降の調査実施体制の基盤を構築するためであり、科学部部員へ「みずしるべ」のねらいや実施方法を習得してもらうこととしました。現場では各部員が複数のグループに分かれて、各基準を確認、話し合いながら「みずしるべ」の観察ノートに回答を記入しました。現場での調査は1時間半程度で終了しました。当日の調査には、科学部部員の家族も数名参加して頂き、回答者の合計は25名でした（うち小学生2名，中学生1名，大人3名）。「みずしるべ」による調査結果のレーダーチャートは図1になります。調査では透視時計を用いた河川水の透視度測定やCODパケットテストを用いてCODを測定したり、参加者全員が和気藹々とした雰囲気を楽しみながら回答していました。

裏川では、NPOなどの自治体を中心に河川清掃事業が毎年、複数回実施されています。来年度はこの清掃活動と並行して、「みずしるべ」による調査を実施したいと考えています。この「みずしるべ」の導入によって、清掃活動による河川環境の評価を自分自身で実施することができ、河川環境をより身近に感じ、河川に対する愛着や親しみの涵養にも寄与できると考えています。

日本水環境学会九州沖縄支部からは、本事業に研究補助を頂きました。ここに記して感謝の意を表します。

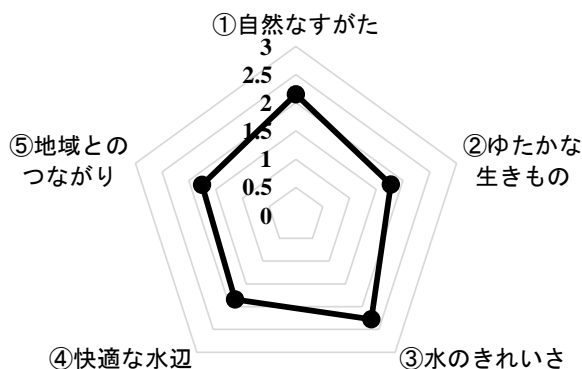


図1 水しるべのレーダーチャート



図2 調査風景